

兵庫・南あわじ市

伝統農業士台に 観光農園・カフェ展開

あわじ増田ファーム



【兵庫】古代から平安にかけて、皇室や朝廷に食料を献上してきた淡路島は、御食園と呼ばれてきた。この豊かな地で、5代、100年以上続く家族経営の「あわじ増田ファーム」(南あわじ市)は、特産のタマネギ、ブルーベリー、水稲などを3毛作の1・5畝規模で栽培している。

増田武美さん(80)と敦子さん(80)夫妻、娘左から有希子さん、瑠子さん、武美さん、敦子さん

5代100年以上続く家族経営

の古賀野有希子さん(50)とその妹・瑠子さん(37)の4人が力を合わせ、豊かでおいしい農産物を生産している。100年以上の歴史を受け継ぎ、それを土台に2025年はブルーベリー観光農園を開園し、今年にはカフェのオープンを予定している。大阪、神戸からのアクセスに恵まれ、全国屈指の農業生産地である淡路島にあっても、高齢化や担い手不足の波は押し寄せている。

有希子さんは「父が築いた歴史を、これからも家族の絆を生かして継続していきたい」と話す。

「新しい国道をそば街道に」

福島とつなぐ道路、今秋あたり開通で

【新潟】新潟県三条市と福島県只見町をつなぐ国道289号八十里越道路が、工事開始から40年の歳月を経て全面開通する。新潟県側の玄関口となる三条市の道の駅「漢学の里」だ。駅長・渡邊梨絵さんは「八十里越をそば街道にしたい」と期待を込める。

道の駅内にある農家レストラン悟空の開店前にそばを打つことも駅長の仕事。小麦粉の割、そば粉8割でつくる同店の「八蕎麦」は三条市ただ産のそば粉を使用している。渡邊さんは「最近ソバを作る農家も増えたと聞く。そんなそば街道で福島県とつながりたい。八十里越に点在する地元ならではのそばを食べて周遊してもらい、往来や交流が活発になると良い」と抱負を語る。

今年秋から来年夏には八十里越は開通を迎える。「新潟県側の最初の観光スポットとして、地域の魅力向上に貢献していきたい」とも話す。

(三条市農業委員会)

新潟 渡邊梨絵さん



しただ産のそばを打つ渡邊さん

中日本版

各地の話題

「野々市かぶら」をブランド認定品に 郷土料理支える希少なカブ



石川 野々市市

栗市長(右から2人目)を囲む野々市かぶら連合会の会員

【石川】野々市市が特色ある産品のうち、特に優れたものを認定する野々市ブランド認定品に

「野々市かぶら」(野々市かぶら連合会)が新たに加わった。1月13日に同市役所で交付式が行われ、栗貴章市長は「野々市の自慢の産品としてこれからさらに磨きをかけて広く発信してほしい」とあいさつした。

野々市かぶらは、石川の伝統的な郷土料理である「かぶら寿し」に欠かせないカブで、野々市でしか作られていない希少性の高さが評価された。野々市かぶら連合会の佛田利弘組合長(65)は「現在では連合会の会員が3人のみとなり、危機的な状況になっているが、今後は生産者や生産量を増やし、GI(地理的表示)登録をめざしていきたい。学校給食にも積極的に使ってもらい、地域の産品になれるよう取り組んでいきたい」と話した。

遊休化地区に新たな担い手 岐阜・揖斐川町に山梨の法人が参入 【岐阜】2025年に揖斐川町谷汲有鳥地区に新たな担い手として参入したのは、山梨県で農業と外国人材派遣業を行う(株)82 Works(林佑哉代表取締役社長)だ。同地区の農地約15畝の大半が遊休化している。同社は将来の農地集積・集約化の可能性を踏まえ、ぎふアグリチャレンジ支援センターが提案した候補地から同地区を選定。農業委員会や地区代表者と連携し、地域説明会を開き、住民の理解を得て参入が決まった。

ドローン操縦体験にぎわう 名古屋市内でスマート農業推進フォーラム 【愛知】東海農政局はこのほど、名古屋市内でスマート農業推進フォーラム2025 in 東海を開催。オンラインによる参加を含めて240人の農業者や関係者が参加した。主催した東海農政局の秋葉一彦局長が「農業者

相続対策で都市農業を残そう

乙訓農委協議会が合同研修会

京都



乙訓2市1町の農業委員会が参加した合同研修会

【京都】乙訓地域(向日市・長岡京市・大山崎町)の農業委員会が2月5日、「都市農地の相続と納税猶予」をテーマに合同研修会を開催し、管内の農業委員など約40人が参加した。

専門相談員が講演し、相続納税猶予制度や都市農地貸借法の仕組みを解説。「地域の農地を守り、都市農業を未来に残すため、農家の相談に応じる委員が仕組みを理解し、制度を活用した相続対策を呼びかけてほしい」と強調した。

参加者は、相続の実例に基づく比較検討から、納税猶予制度を活用した相続対策の必要性を改めて認識し、有意義な研修会となった。

主催した乙訓農業委員会協議会では、毎年度、農業委員の関心が高いテーマを選び、管内の委員が全員参加する合同研修会を続けている。

【和歌山】県農林大学校で修了式 和歌山県農林大学校で修了式 研修生(前列の中央2人)と大学の指導陣ら(厚生労働省の委託を受け、離職職者等職業訓練「農業科」として実施。9カ月間の研修では、農業に関する基礎知識や専門知識、実践的な技術や経営感覚を習得

標高1千メートルの高原でブドウに挑戦

長野 小海町



【長野】高齢化や温暖化の影響で、これまで作られた農作物の栽培に将来不安を抱える小海町で、ワイン用のブドウの栽培試験が行われ、着実に成果をあげている。

ブドウ栽培への挑戦が始まったのは標高1千メートルを超える高原地帯。地域おこし協力隊4人が中心となって2020年度に栽培試験が始まった。24年度には約300本のブドウを収穫し、160本の「小海ワイン」が誕生した。

5年目にワインも誕生

同地域では、もともと高原野菜の栽培が盛んで、品質は市場でも高く評価されている。ただ、近年は高齢化の進行で担い手確保が課題となり、温暖化が重なってこれまで栽培できていた作物が将来的に作れなくなるのではないかとという不安が生じている。



地域代表者と打ち合わせする林社長(右から2人目)

【岐阜】2025年に揖斐川町谷汲有鳥地区に新たな担い手として参入したのは、山梨県で農業と外国人材派遣業を行う(株)82 Works(林佑哉代表取締役社長)だ。

同社は将来の農地集積・集約化の可能性を踏まえ、ぎふアグリチャレンジ支援センターが提案した候補地から同地区を選定。農業委員会や地区代表者と連携し、地域説明会を開き、住民の理解を得て参入が決まった。

同地区の農地約15畝の大半が遊休化している。同社は将来の農地集積・集約化の可能性を踏まえ、ぎふアグリチャレンジ支援センターが提案した候補地から同地区を選定。農業委員会や地区代表者と連携し、地域説明会を開き、住民の理解を得て参入が決まった。

同時に開催された展示会では、最新の大型ドローン、ラジコン草刈機などが展示され、AR技術を用いたドローンの操縦体験などにぎわった。



修了式の後に営農設計を発表した研修生は、指導にあたった職員から「健康には気をつけて農作業に取り組んで」と激励を受けていた。

【和歌山】県農林大学校で修了式 和歌山県農林大学校で修了式 研修生(前列の中央2人)と大学の指導陣ら(厚生労働省の委託を受け、離職職者等職業訓練「農業科」として実施。9カ月間の研修では、農業に関する基礎知識や専門知識、実践的な技術や経営感覚を習得